

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170503312		
法人名	医療法人社団 弘恵会		
事業所名	グループホーム生きがい2 Aユニット		
所在地	札幌市白石区北郷2条4丁目6-12		
自己評価作成日	令和2年3月5日	評価結果市町村受理日	令和2年4月15日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kan=true&JigyosyoCd=0170503312-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム生きがい2は、法人母体である整形外科内科沢口医院の3階にあり医療支援体系が充実している。JR白石駅北口より徒歩3分の位置にあり、公共機関を使っでの来訪が便利な立地となっている。近所の生協やケーキ屋さんまで散歩がてら買い物に行ったり、町内会の花植えに参加、白石区の就労体験事業の白石でっち奉公での学生さんの受け入れなどを続けて行っており、地域とのつながりを意識している。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和2年4月2日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム「生きがい2」は、医療法人弘恵会が運営する2ユニットの事業所である。2つのユニットは回廊構造となっている。そのため1階にある整形外科のリハビリテーションを受けている利用者にとっては、日常的な歩行訓練の場となっている。6項目ある事業所理念の一つである「地域住民との関わりを大切にし、行事などで交流を深めます」に基づき、管理者は「生き生きサロン」や「地域ケア会議」などに参加し、地域住民との関わりを構築している。また、理念は事務所やユニットの各箇所に掲示し職員や利用者、家族が確認できるようにしている。運営推進会議の参加者である町内会婦人部より歩道の花壇に花植えをするという情報提供を受け、利用者と共に2年間継続している。利用者の日々変化する様々な要望を家族に電話等で報告をし、細やかな調整をしている。家族等からの意見や要望は介護記録に記載し、更に口頭で申し送りすることで職員間で共有している。平成31年は災害対策として火災と地震を想定した避難訓練を6回実施し、その際の避難の様子を写真撮影し分かりやすいマニュアルを作成している。前回の外部評価受審後に作成した「目標達成計画」の課題に対しても真摯な姿勢で取り組んでいる。また、外部評価報告書の表紙を全家族に送付している。平成29年11月に就任した管理者は、限られた人的環境において現在の認知症ケアの質を維持することを最大の目標として捉え、職員との信頼関係を築いてる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念をホーム内見えるところに掲示、各スタッフが理念を念頭に入れ統一したケアを行えるようにしている	事業所理念は6項目で構成されている。事務所やユニットの洗面所など複数箇所に掲示し、職員間で共有している。新入職員には、これらの理念を説明している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティアさんや白石でっり奉公での学生さんの受け入れ(中学2校)利用者さんと町内の店にでかける、町内会の花植えに参加など地域とのつながりを意識している	管理者は理念に基づき、介護予防事業の「生き生きサロン」や「地域ケア会議」に参加し地域住民との交流を図っている。毎年5月には事業所にボランティアのフラダンス会が来訪している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	急な見学対応などできる限り対応しており、その際支援の方法や介護保険の施設の説明など行うことがある 北郷ふれあいサロンやスマイル北郷さんへレクなど認知症予防の支援にスタッフが参加した		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	グループホーム内での利用者の過ごした方や出来事などを報告、また参加者から情報意見やアドバイスを受けている 町内会の花植えに参加させてもらうようお願いして実施できるようになった	月1回発行している「ひだまり通信」に会議の案内を記載している。会議と同一日に家族会や昼食会、避難訓練を行うこともある。町内会長や婦人部、地域包括支援センター職員、各ユニットの家族が参加している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	区役所でオムツサービスの代行申請、生活保護課担当者とは必要に応じて連絡、相談をしている	書類等を提出する時には市町村の窓口を訪問し、直接渡している。また、感染症予防のため運営推進会議の実施方法を電話で相談し確認している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者が拘束の必要のない過ごし方ができるよう医師と相談して薬の調整をするなどしている 虐待に関する勉強会を行い、身体拘束の具体的な禁止行為を確認、スタッフが理解して身体拘束のないケアの実践ができるようにしている	禁止の対象となる具体的な行為について年1回の外部研修を受講し、内部研修は年3回実施している。「身体的拘束等の適正化委員会」を年に4回開催し記録している。1階の玄関は施錠しているが内側から解錠可能であり、ユニットの出入り口は24時間施錠はしていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	各スタッフが具体的に高齢者虐待がどのようなものか理解して防止に努めている		

グループホーム生きがい2

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在当グループホームには日常生活支援事業や成年後見制度を利用される方はいないが、制度がどのようなものかなどの理解ができるようにしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者家族、また利用者とは十分な説明を行ったうえで契約締結など行っている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月発行の「ひだまり通信」で行事内容などを、また利用者の様子などを担当スタッフ、管理者より直筆で添えるようにしている 行事の参加の有無アンケートに疑問や確認したいことを書いてもらうようにして発行した	利用者担当の職員が「ひだまり通信」に日常生活の様子を手書きで報告している。また、利用者の様々な要望を家族に連絡し相談している。家族からの意見等については、介護記録に記載し申し送りすることで共有している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のユニット会議や日常的な聞き取りで各スタッフの意見や提案を相談、検討している	職員は様々な意見や提案を「連絡ノート」に記入している。管理者は、その内容を確認し定例業務会議などで検討している。職員が「嚙下体操カード」を作成し、全員で取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職場環境、修業環境の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者はスタッフの力量の把握や研修を受ける機会の確保などに努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会や管理者会議に参加し、同業者との情報交換や交流を持っている		

グループホーム生きがい2

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面会の機会を必ず持ち、関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	質問や疑問など傾聴、誠意を持って対応を行いはっきりとわかりやすい返答を心掛けている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要なケアやサービスについて整理し関係者との連絡や相談をすることにより優先すべき支援を見極めることができている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事などの支援をお願いして協力してもらうなど、暮らしを共にする者同士という関係を築けている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	普段から利用者の様子などの報告や相談を行うように努めており、利用者本人を支えていく関係づくりを築けるようにしている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者自身に家族や友人に年賀状を作成し投函を続けており、その結果利用者へ届く年賀状が増えてきた 携帯電話で家族や友人と会話を日常的にしていたり、華道のお弟子さん達の面会がありご本人が喜ばれていたことあり	定期的に友人が面会に来る利用者は4名ほどいる。1階にある医院を受診した帰りに立ち寄る友人もいる。本人の私物である携帯電話で友人との交流を継続している利用者もいる。今後は利用者一人ひとりの「馴染みの場」を把握していく予定である。	利用者一人ひとりの「馴染みの場」を把握することで、その場所との関係が途切れない支援を期待したい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	必要な時には仲介に入るなど利用者同士が関わりを持って生活していくことができるよう努めている 部屋の行き来や自主歩行練習に誘い合う様子ある		

グループホーム生きがい2

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	誠意を持って支援に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	具体的に自分の口から希望が聞き取れない場合この方ならこういう思いを持っているのではないかと、その方の立場に立って検討する姿勢をスタッフ一同大切にしている	「介護記録」に本人が発した言葉を記載している。その言葉の意味を解釈することが難しい時は、家族に確認している。表情などから把握することもある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からの聞き取り、居宅支援事業者や病院相談員などより情報提供をお願いして把握できるようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送り、連絡ノート、会議などによりスタッフ間で情報交換と把握に努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要に応じて再アセスメントを実施して現状に即した介護計画の作成に努めている	3か月ごとに更新しており、その際は「介護記録」「介護支援経過記録」「ケアプラン評価表」を活用している。面会時に家族と話し合い、またリハビリテーションを受けている利用者は、理学療法士の意見などを反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に本人の実際に言っていた言葉を残すように努めている。また気づきや工夫などは申し送り、会議などで確認し情報共有しており、アセスメントに追加や介護計画見直しにいかすことができている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新しいニーズに対応できるよう誠意を持って行うよう努めている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	介護タクシーや訪問歯科、訪問理美容、病院外来でリハビリの利用がある。利用者の豊かな生活づくりに役立つ地域資源がないか把握に努める		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回の訪問診察のほか、不調時などは同建物1階の沢口医院へ受診。他科は家族の他、スタッフが付き添いで受診することがある。受診記録を作成している	精神科などのかかりつけ医を受診する時は、職員が受診支援をしている。受診内容や薬剤費は、電話で家族に報告をしている。	

グループホーム生きがい2

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	普段から沢口医院の看護師に相談することができ適切な受診を受けられる		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	受診への付き添い時などに、利用者の様子や症状などの報告を行っており、病院関係者との関係づくりに役立っている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所でできることを説明しており、その後については家族や関係機関と相談して方針を決めていく	入居時に「重度化した場合の対応に係る指針」の文書を基に説明をしている。口から食べられない状態や常時医療が必要となる場合は、医療機関や施設を紹介している。現時点では看取りは行っていない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の対応方法などの確認把握の必要性を各スタッフが意識しており、それについてスタッフは話し合いを持っている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中想定、夜間想定火災、地震避難訓練を6回実施し、車椅子利用者の階段からの避難や通報訓練をスタッフ全員が体験している。利用者家族の参加あり	平成31年は消防署に書類を提出し6回の避難訓練を実施している。勉強会では5月と10月の年2回、避難訓練を取り上げ報告書を作成している。	

Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声のトーンや大きさ、表情なども気を付けて対応 利用者の呼びかけは「さん」付けで、記録類は事務所で安全に保管している	接遇研修を受講しその内容を事業所内の勉強会で伝達し、日々の言葉かけや対応に活かしている。申し送りは事務所内で行い、プライバシーを確保している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者へのわかりやすい問いかけや促しに気をつけながら自己決定できるよう働きかけに努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人の生活ペースや希望を尊重できるよう支援に努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧品、シャンプー、洋服など好みのものを用意してもらうなど支援に努めている		

グループホーム生きがい2

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	下膳、テーブル拭き、食器拭き、野菜の下準備など日常的に利用者に行ってもらい機会を持ち、それにより食事中の会話などにつながっている	外部業者により、メニューに合わせて食材が搬入されている。職員と一緒に食事をとりながら、メニューや食材の季節感を感じられるような会話を心がけている。食前には嚥下体操が行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態などその方の状態にあわせ対応している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	それぞれの状態にあわせて口腔ケアの実施をしている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の回数や時間、状態の記録と把握を行い排泄ケアに役立つようにしている	日々の介護記録に経時的な排泄記録がされており適切なケアの支援を行っている。病状により紙おむつを使用する場合でも利用者の不快感を軽減できるよう配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分摂取量の確認を行っている 便秘が続くとき主治医に相談することがある		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴が可能で各利用者が週2回の入浴をしている 昨日中止だったので今日入るかどうか、時間は早めと遅めどちらがいいかなど本人に確認するようにしている	理念に「入浴と理美容はその人に合ったニーズに合わせます」とあり、希望のタイミングに合わせて週2回は入浴を支援している。1人で入浴できる方は、ゆっくりと1人で入浴タイムを楽しめるよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の様子観察、都度の対応を実施している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報に必ずスタッフ全員が目を通すようにしている 医師からの注意事項などもあわせて確認している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方のできることやりたいこと、欲しいものなど聞き取り行えるよう支援に努めている		

グループホーム生きがい2

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	冬期間の外出は困難であるが、夏期間ではできるだけ希望に沿って出かけられるよう努めている 外出の行事の他、近所のケーキ屋さんにソフトクリームを食べに行ったり、花火遊びを実施した	JR駅に近い立地のため散歩で電車を見に行くことを楽しみにしている方もいる。年間の行事でドライブや買い物行事等が組まれており、家族も同行している。家族の協力により介護タクシーを利用し外出する方もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者によって、居室に財布が置いてあったりスタッフが預かっていたりする 希望時買い物に出かけている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙、年賀状、電話などのやりとりの支援を実施している		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	心地よく過ごせるように環境づくりに努めている	2つのユニットが回廊式になっているのでユニット間は自由に移動ができる。そのため、日常的に室内での移動距離が長くなっており活動的に過ごせている。居間兼食堂には対面式キッチンがあり一緒に食事の後片付けなどが行われるよう配慮されている。畳の小上がりがあり、リラックスできる空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング内のソファや畳などで過ごしてもらうことができる		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族など自宅より持ち込みされており、その人らしい居室づくりができている	座椅子やテレビ、仏壇など自宅で使用していた家具を持参し居心地よく過ごせるよう工夫している。小さな冷蔵庫にちょっとしたおやつなどを入れ、楽しみにしている方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その人らしく自立した生活が行えるよう努めている		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170503312		
法人名	医療法人社団 弘恵会		
事業所名	グループホーム生きがい2 Bユニット		
所在地	札幌市白石区北郷2条4丁目6-12		
自己評価作成日	令和2年3月5日	評価結果市町村受理日	令和2年4月15日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action.kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0170503312-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和2年4月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム生きがい2は、法人母体である整形外科内科科沢口医院の3階にあり医療支援体系が充実している。JR白石駅北口より徒歩3分の位置にあり、公共機関を使つての来訪が便利な立地となっている。近所の生協やケーキ屋さんまで散歩がてら買い物に行ったり、町内会の花植えに参加、白石区の就労体験事業の白石でっち奉公での学生さんの受け入れなどを続けて行っており、地域とのつながりを意識している。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念をホーム内見えるところに掲示、各スタッフが理念を念頭に入れ統一したケアを行えるようにしている		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティアさんや白石でっり奉公での学生さんの受け入れ(中学2校)利用者さんと町内の店にでかける、町内会の花植えに参加など地域とのつながりを意識している		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	急な見学対応などできる限り対応しており、その際支援の方法や介護保険の施設の説明など行うことがある 北郷ふれあいサロンやスマイル北郷さんへレクなど認知症予防の支援にスタッフが参加した		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	グループホーム内での利用者の過ごした方や出来事などを報告、また参加者から情報意見やアドバイスを受けている 町内会の花植えに参加させてもらうようお願いして実施できるようになった		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	区役所でオムツサービスの代行申請、生活保護課担当者とは必要に応じて連絡、相談をしている		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者が拘束の必要のない過ごし方ができるよう医師と相談して薬の調整をするなどしている 虐待に関する勉強会を行い、身体拘束の具体的な禁止行為を確認、スタッフが理解して身体拘束のないケアの実践ができるようにしている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	各スタッフが具体的に高齢者虐待がどのようなものか理解して防止に努めている		

グループホーム生きがい2

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在当グループホームには日常生活支援事業や成年後見制度を利用される方はいないが、制度がどのようなものかなどの理解ができるようにしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者家族、また利用者とは十分な説明を行ったうえで契約締結など行っている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月発行の「ひだまり通信」で行事内容などを、また利用者の様子などを担当スタッフ、管理者より直筆で添えるようにしている 行事の参加の有無アンケートに疑問や確認したいことを書いてもらうようにして発行した		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のユニット会議や日常的な聞き取りで各スタッフの意見や提案を相談、検討している		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職場環境、修業環境の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者はスタッフの力量の把握や研修を受ける機会の確保などに努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会や管理者会議に参加し、同業者との情報交換や交流を持っている		

グループホーム生きがい2

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(Ｂユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面会の機会を必ず持ち、関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	質問や疑問など傾聴、誠意を持って対応を行いはっきりとわかりやすい返答を心掛けている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要なケアやサービスについて整理し関係者との連絡や相談をすることにより優先すべき支援を見極めることができている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事などの支援をお願いして協力してもらうなど、暮らしを共にする者同士という関係を築けている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	普段から利用者の様子などの報告や相談を行うように努めており、利用者本人を支えていく関係づくりを築けるようにしている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者自身に家族や友人に年賀状を作成し投函を続けており、その結果利用者へ届く年賀状が増えた 携帯電話で家族や友人と会話を日常的にしていたり、華道のお弟子さん達の面会がありご本人が喜ばれていたことあり		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	必要な時には仲介に入るなど利用者同士が関わりを持って生活していくことができるよう努めている 部屋の行き来や自主歩行練習に誘い合う様子ある		

グループホーム生きがい2

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	誠意を持って支援に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	具体的に自分の口から希望が聞き取れない場合この方ならこういう思いを持っているのではないかと、その方の立場に立って検討する姿勢をスタッフ一同大切にしている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からの聞き取り、居宅支援事業者や病院相談員などより情報提供をお願いして把握できるようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送り、連絡ノート、会議などによりスタッフ間で情報交換と把握に努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要に応じて再アセスメントを実施して現状に即した介護計画の作成に努めている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に本人の実際に言っていた言葉を残すように努めている また気づきや工夫などは申し送り、会議などで確認し情報共有しており、アセスメントに追加や介護計画見直しにいかすことができている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新しいニーズに対応できるよう誠意を持って行うよう努めている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	介護タクシーや訪問歯科、訪問理美容、病院外来でリハビリの利用がある 利用者の豊かな生活づくりに役立つ地域資源がないか把握に努める		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回の訪問診察のほか、不調時などは同建物1階の沢口医院へ受診 他科は家族の他、スタッフが付き添いで受診することがある 受診記録を作成している		

グループホーム生きがい2

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	普段から沢口医院の看護師に相談することができ適切な受診を受けられる		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	受診への付き添い時などに、利用者の様子や症状などの報告を行っており、病院関係者との関係づくりに役立っている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所でできることを説明しており、その後については家族や関係機関と相談して方針を決めていく		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の対応方法などの確認把握の必要性を各スタッフが意識しており、それについてスタッフは話し合いを持っている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中想定、夜間想定の方針、地震避難訓練を6回実施し、車椅子利用者の階段からの避難や通報訓練をスタッフ全員が体験している 利用者家族の参加あり		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声のトーンや大きさ、表情なども気を付けて対応 利用者の呼びかけは「さん」付けで、記録類は事務所内で安全に保管している		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者へのわかりやすい問いかけや促しに気をつけながら自己決定できるよう働きかけに努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人の生活ペースや希望を尊重できるよう支援に努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧品、シャンプー、洋服など好みのものを用意してもらうなど支援に努めている		

グループホーム生きがい2

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	下膳、テーブル拭き、食器拭き、野菜の下準備など日常的に利用者に行ってもらう機会を持ち、それにより食事中の会話などにつながっている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態などその方の状態にあわせ対応している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	それぞれの状態にあわせて口腔ケアの実施をしている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の回数や時間、状態の記録と把握を行い排泄ケアに役立つようにしている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分摂取量の確認を行っている 便秘が続くとき主治医に相談することがある		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴が可能で各利用者が週2回の入浴をしている 昨日中止だったので今日入るかどうかなど、時間は早めと遅めどちらがいいかなど本人に確認するようにしている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の様子観察、都度の対応を実施している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報に必ずスタッフ全員が目を通すようにしている 医師からの注意事項などもあわせて確認している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方のできることややりたいこと、欲しいものなど聞き取り行えるよう支援に努めている		

グループホーム生きがい2

自己評価	外部評価	項 目	自己評価 (Bユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	冬期間の外出は困難であるが、夏期間ではできるだけ希望に沿って出かけられるよう努めている 外出の行事の他、近所のケーキ屋さんにソフトクリームを食べに行ったり、花火遊びを実施した		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者によって、居室に財布が置いてあったりスタッフが預かっていたりする 希望時買い物に出かけている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙、年賀状、電話などのやりとりの支援を実施している		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	心地よく過ごせるように環境づくりに努めている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング内のソファや畳などで過ごしてもらうことができる		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族など自宅より持ち込みされており、その人らしい居室づくりができています		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その人らしく自立した生活が行えるよう努めている		

(別紙4-2)

目標達成計画

事業所名 グループホーム生きがい2

作成日：令和 2年 4月 13日

市町村受理日：令和 2年 4月 15日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	20	利用者本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所などの把握を深める	利用者それぞれの馴染みの場所を把握し、本人との関係が途切れない支援を目指す	1 利用者それぞれのよく行っていた場所や思い出などを聞き出す 2 実際馴染みの場所に行けそうな時は本人と一緒に出かける機会を持つ	1年間
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。